

令和6年度入学 社会福祉学部 私費外国人留学生選抜 試験問題の出典

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	上田 紀行	生きる意味	2005年 P155-157より 一部改変	岩波書店

社会福祉学部

小 論 文 (90 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2 ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

「ワクワクすること」を育てていけるかどうかには、どんな人と付き合っているかが大切だ。自分のワクワクする話を語っても「お前はしょせん苦勞が足りないんだよ」と言われ、夢を語っても、「そんなのどうせ無理だよ」と言われ続けるのでは、人生の輝きからも夢からも見放されてしまう。もちろん、真の友人、先輩として、「ここがまだ足りない」とか「もっとこうしたところを努力すればいい」とか、心からのアドバイスを送ることがキツイ言葉になることはある。しかしそれは友人や後輩の「夢」や「輝き」を尊重すればこそのものであって、自分も不満だらけで生きているのだから、お前もそうでなければダメだというように、妬みから潰しにかかるような人間たちに囲まれているのでは、かなりの生命力を持っていなければ、その場での「内的成長」はなかなか難しいだろう。

「苦悩」に直面し、その意味を深く探究することから自分の「生きる意味」を探し出すこと、それもなかなかひとりではできないことだ。苦悩するとき、私たちはとても孤独だ。誰も自分の苦悩を分かってくれない、自分は見捨てられている、そんな思いにとらわれることも多い。

もちろん、そういった孤独は大切ではある。ちょっと苦しいだけで「癒して～」と誰かに依存してはなかなか苦しみ^{くるしみ}の深い意味とは直面できない。私にしても、苦しいときに誰にも会う気にならず、誰にも自分の心を打ち明けることができず、閉じこもりのように引きこもっていたこともあったし、その時期も自分にとっては大切だったのだと思う。しかし、そこから劇的に¹「生きる意味」が展開していったのは、孤独の極点でもう耐えられなくなり、友人たちに自分の胸の内を吐露²し始めてからのことだった。

「苦悩」を探究すること、それにはかなりのエネルギーが必要だ。そして、それは一朝一夕³には成し遂げられない。「苦悩」に向かい合い、それを「内的成長」へとつなげていくには、かなりの時間も必要なのだ。そして、そこを耐え抜き、「生きる意味」へと展開していくには、仲間が、そして仲間とのコミュニケーションが必要なのである。

私たちの多くは、人生に「苦悩」があることが問題なのだと思っている。だから「苦悩」が起こらないようにとびくびくしながら生きている。しかし、問題なのは「苦悩」が生じるかどうかよりも、その「苦悩」が孤立化してしまうかどうかだ。もしあなたに「苦しみ」が生じても、もしその「苦しみ」を聞き届けてくれる仲間が、友人がいれば、もちろん苦しいことは苦しいにしても、あなたの「苦しみ」はそこで受けとめられ、新たな「生きる意味」へと展開していく。そして、一番苦しい時期を何とか耐え抜き、その「苦しみ」を「内的成長」へと育てていく。

(上田紀行『生きる意味』、岩波書店、2005 年、pp.155-157 より、一部改変)

注 1：劇的に 程度がはなはだしいさま。大きく変化するさま。

注 2：吐露^{とろ} 気持ちや意見などを隠さず^{かく}に他人にうちあけること。

注 3：一朝一夕^{いちちよういつせき} きわめてわずかな期間、非常に短い時間のたとえ。

問1 下線部「自分の『生きる意味』を探し出すこと，それもなかなかひとりではできないことだ」とあるが，著者はどのような考えからこう述べるのか，150字以上200字以内で説明しなさい。

問2 「苦しみ」を「内的成長」や「生きる意味」に展開させるものについて，具体的な事例を示しながらあなたの考えを，400字以上600字以内で述べなさい。